

平成27年度豆類需給安定会議・ 平成27年度豆類産地懇談会・ 第63回豆類生産流通懇談会の開催

全国豆類振興会

豆類の生産・流通・加工の関係者が一堂に会し、主産地十勝の作況を視察するとともに、今後の需給状況に関する情報・意見を交換し、道産豆類に対する理解をより一層深め、豆類の生産・流通の安定と消費の維持・確保を図ることを目的として、(公社)北海道豆類価格安定基金協会、全国豆類振興会及び北海道豆類振興会の3者が主催して、9月3日(木)北海道十勝管内音更町で開催されました。生産・流通・加工等業界、行政・試験研究等の関係者約80名が参加されました。

午前中は、作況視察で十勝農業試験場において本年の生育状況、新品種の育成状況等について説明を受けました。

その後、更別村、帯広市大正の2地域において、エリモショウズ、福勝、雪手亡等のほ場を見せていただきました。

午後の懇談会は、全国豆類振興会 吉田岳志会長から主催者挨拶の後、来賓として農林水産省生産局穀物課の松下課長補佐がご挨拶を兼ねて「豆類をめぐる最近の事情」を報告されたほか、(公財)日本豆類協会の斉藤常務理事からご挨拶をいただきました。

<第1部 話題提供>

話題提供では、(公財)とち財団 事業部研究開発課 佐々木香子氏から「十勝産雑豆素材の普及促進に係わる研究及び需要調査」で実施した雑豆の粉末およびペースト素材の高齢者向け食品への利用促進による雑豆素材の新規分野への用途拡大について報告がありました。

また、(地独)北海道立総合研究機構農業研究本部 十勝農業試験場生産システムグループ 白井康裕氏から「十勝農業における豆類の位置づけ」と題して、所得データから見た畑作農業の課題、事例経営から見た豆類の今後及び十勝における豆類の可能性について報告がありました。

<第2部 意見交換>

第2部では、「道産豆類の持続的な需給の確保に向けて」をテーマに意見交換が公益社団法人北海道農業改良普及協会 黒澤不二男会長のコーディネーターのもとに進められました。

その中では、「産地情勢」として、ホクレン農業協同組合連合会 雑穀課長 長谷川幸男氏から平成27年産豆類の生育状況と

生産見通しについて報告をしていただきました。

また、「海外情勢」として、雑穀輸入協議会 副理事長 甘糟 薫一郎氏から海外の雑豆情勢及び2016年の国際マメ年について詳細な報告がありました。

さらに、「試験研究動向」につきましては、十勝農業試験場 主査 佐藤 仁氏から豆類（小豆、菜豆、大豆）の品種の育成状況等について報告がありました。

その後、消費の維持確保、試験研究や関係団体が抱える課題などに対し活発な意見交換を行い、懇談会を終了しました。



帯広市大正地区の作況調査



懇談会の会場